

ミラーンの訓練所を下流側（排水路出口）から遠望。10月31日を以て全ての工事を終える。取水堰の維持が最優先課題で、そのための訓練所である。8ジェリブ（16,000 m²）でも資機材置き場としては使える。2017年10月12日



内装はほぼできていて、外装（庭や周辺の整備）も今週で終わる予定。2017年10月12日



建物を川側から見る。2017 年 10 月 12 日



訓練所の資機材置き場の大半を占めるのが巨礫だ。取水堰の維持は巨礫をつぎ足しながら補強していく仕事を中心である。ミラーン堰は各取水堰にアプローチしやすく、大量の備蓄を計画している。2017年10月12日



訓練所横の整地の合間に村民や避難民の子女が薪拾いに集まってくる。着火用に使う乾燥した草木の根っこは家庭の必需品で、野外で集めるのは女性や子供の仕事になっている。学校に行けない貧しい子供の方が多い。優等生より、こちらの方が我々の気になる。2017年10月12日



ミラーン堰の現在。河川水の異常減少で、分流の流れが途絶えているが、可動堰のお陰で渇水知らず。浸透水だけで十分まかなえる。護岸堤防に沿って植えたヤナギが成長して目に優しい。2017年10月12日



ミラーン堰付近に植えたシーシャムの並木。樹林帯の造成でシーシャムが注目されている。マメ科の高木で木質が極めて固いが、成長は案外早い。クナール河沿いの自然林は大抵がシーシャムで、活着率も良い。移植時に樹高 50 cmほどであったが、約 1 年半で 3~4mに成長している。成長の速さは排水路沿いのヤナギに劣らない。2017 年 10 月 12 日



マルワリード II の調節池Ⅲの現在。基礎はでき、水門や土手造成の段階に入っている。2017 年 10 月 14 日



サイフォンの現在。2017 年 10 月 16 日



取水路の造成。レベルを確認して、ライニングが開始されている。工事の便のため、タラーン用水路は臨時に管水路を潜らせて送水中。籠組みが近づいてきた段階で、タラーン用水の造成も始められる。2017年10月16日

